

博士論文（要約）

論文題目 明治・大正期の日本語書き言葉における一人称代名詞の研究  
—近代雑誌コーパスを資料とした計量的分析—

氏名 近藤 明日子

## 目次

第1章	序論	1
第1節	はじめに	1
第2節	研究の背景	1
2.1	明治・大正期の一人称代名詞に関する研究の現状と課題	1
2.1.1	小説・戯曲・落語の会話文を資料とした先行研究	1
2.1.1.1	特定の資料を対象とした研究	2
2.1.1.2	特定の語形を対象とした研究	3
2.1.1.3	幅広い時期の資料を対象とした網羅的な研究	5
2.1.2	会話文以外を資料とした先行研究	6
2.1.3	残された課題	7
2.2	近代語研究におけるコーパスの現状と課題	8
第3節	本研究の目的	10
第4節	論文の構成	10
第2章	近代雑誌コーパスの設計と構築	12
第1節	コーパス構築の経緯から見る近代雑誌コーパスの設計	12
1.1	『太陽コーパス』	12
1.2	『近代女性雑誌コーパス』	14
1.3	『明六雑誌コーパス』	14
1.4	『国民之友コーパス』	17
1.5	『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』	20
1.6	更なるコーパスの拡充	22
1.6.1	『東洋学芸雑誌』データの追加	22
1.6.2	会話文の話者の属性に関するアノテーションの追加	25
1.6.2.1	性別	26
1.6.2.2	社会階層	26
第2節	近代雑誌コーパスの設計の詳細	27
2.1	コーパス化の対象に関する設計	28
2.1.1	対象の雑誌・巻号	28
2.1.2	電子化の対象とする文書要素	28
2.2	サンプルの設計	29
2.3	テキストの電子化の設計	31
2.3.1	使用する文字集合	32
2.3.2	外字の電子化	32
2.3.3	特殊な表記の電子化	34
2.3.4	振り仮名の電子化	36
2.3.5	空白の電子化	37
2.3.6	誤植の電子化	37

2.3.7	漢文体・候文体の電子化.....	38
2.3.8	判読困難な文字.....	39
2.3.9	サンプル中の電子化対象外の文字列.....	40
2.4	形態論情報の設計.....	40
2.5	引用に関するアノテーションの設計.....	43
第3章	一人称代名詞と使用場面属性の抽出・分類.....	44
第1節	一人称代名詞の抽出と分類.....	44
1.1	一人称代名詞の抽出.....	44
1.2	一人称代名詞の用法による分類.....	46
第2節	使用場面属性の抽出.....	49
2.1	文章種類の抽出.....	49
2.2	口語文体の抽出.....	52
2.3	使用者属性の抽出.....	53
2.4	雑誌種類の抽出.....	54
第4章	言語量から見る近代雑誌コーパスの資料特性.....	55
第1節	コーパス全体の言語量.....	55
第2節	調査対象テキストの言語量.....	59
2.1	文語体地の文.....	59
2.2	口語体地の文.....	60
2.3	口語体会話文.....	68
第3節	まとめ.....	72
第5章	『明六雑誌』の一人称代名詞.....	74
第1節	一人称代名詞の語形種類と使用量.....	74
第2節	用法別に見る一人称代名詞.....	75
2.1	文語体地の文の一人称代名詞の使用量の概要.....	75
2.2	単数用法の一人称代名詞.....	77
2.3	複数用法の一人称代名詞.....	80
第3節	語形使用タイプから見る一人称代名詞.....	82
3.1	単数用法の語形使用タイプ.....	82
3.2	複数用法の語形使用タイプ.....	85
3.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ.....	86
第4節	まとめ.....	87
第6章	『東洋学芸雑誌』の一人称代名詞.....	88
第1節	一人称代名詞の語形種類と使用量.....	88
第2節	用法別に見る一人称代名詞.....	88
2.1	単数用法の一人称代名詞.....	88
2.2	複数用法の一人称代名詞.....	89

第3節	語形使用タイプから見る一人称代名詞.....	90
3.1	単数用法の語形使用タイプ.....	90
3.2	複数用法の語形使用タイプ.....	92
3.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ.....	93
第4節	まとめ .....	93
第7章	『国民之友』の一人称代名詞.....	95
第1節	一人称代名詞の語形種類と使用量.....	95
第2節	無署名サンプルの一人称代名詞.....	97
2.1	用法別に見る一人称代名詞.....	97
2.1.1	単数用法の一人称代名詞.....	97
2.1.2	複数用法の一人称代名詞.....	98
2.2	語形使用タイプから見る一人称代名詞.....	99
第3節	署名サンプルの一人称代名詞.....	101
3.1	用法別に見る一人称代名詞.....	102
3.1.1	単数用法の一人称代名詞.....	102
3.1.2	複数用法の一人称代名詞.....	104
3.2	語形使用タイプから見る一人称代名詞.....	106
3.2.1	単数用法の語形使用タイプ.....	106
3.2.2	複数用法の語形使用タイプ.....	110
3.2.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ.....	113
第4節	まとめ .....	114
第8章	『太陽』の文語体書き言葉の一人称代名詞.....	119
第1節	文章種別一人称代名詞の語形種類と使用量.....	119
第2節	用法別に見る文語体地の文の一人称代名詞.....	123
2.1	一人称代名詞の使用量の概要.....	123
2.2	単数用法の一人称代名詞.....	125
2.3	複数用法の一人称代名詞.....	129
第3節	語形使用タイプから見る文語体地の文の一人称代名詞.....	132
3.1	単数用法の語形使用タイプ.....	132
3.2	複数用法の語形使用タイプ.....	138
3.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ.....	143
第4節	まとめ .....	145
第9章	明治・大正期の文語体書き言葉における一人称代名詞の通時的変化.....	146
第1節	用法別に見る通時的変化.....	146
1.1	単数用法 .....	146
1.2	複数用法 .....	148
1.3	複数用法使用著者率の通時的変化.....	150
第2節	語形使用タイプから見る通時的変化.....	151
2.1	単数用法の語形使用タイプ.....	151

2.2	複数用法の語形使用タイプ	153
2.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ	154
第3節	「ごじん」の通時的変化の背景	155
第4節	まとめ	156
第10章	『太陽』の口語体書き言葉の一人称代名詞	158
第1節	一人称代名詞の語形種類と使用量	158
第2節	用法別に見る一人称代名詞	160
2.1	単数用法の一人称代名詞	160
2.2	複数用法の一人称代名詞	167
第3節	語形使用タイプから見る一人称代名詞	172
3.1	単数用法の語形使用タイプ	172
3.2	複数用法の語形使用タイプ	177
3.3	単数・複数用法併用の語形使用タイプ	181
第4節	文語体書き言葉の一人称代名詞との関係	183
4.1	文語体からの影響による口語体の変化	183
4.2	口語体からの影響による文語体の変化	184
第5節	まとめ	184
第11章	『太陽』の口語体会話文の一人称代名詞	186
第1節	一人称代名詞の語形種類と使用量	186
第2節	一人称代名詞の語形と話者属性の対応関係	189
2.1	単数用法の一人称代名詞	189
2.2	複数用法の一人称代名詞	193
第3節	会話の口語文体別主要語形と通時的変化	196
3.1	知識層男性	196
3.1.1	単数用法	196
3.1.2	複数用法	198
3.2	知識層女性	199
3.2.1	単数用法	199
3.2.2	複数用法	201
3.3	非知識層男性	202
3.3.1	単数用法	202
3.3.2	複数用法	203
3.4	非知識層女性	204
3.4.1	単数用法	204
3.4.2	複数用法	205
3.5	主な語形の考察	205
3.5.1	「わたくし」「わたし」	205
3.5.2	「ぼく」	206
3.5.3	「あたし」	207
3.5.4	「わがはい」	207

第 4 節	口語体地の文の一人称代名詞と口語体会話文の一人称代名詞の関係.....	208
4.1	口語体地の文と知識層男性の口語体会話文.....	208
4.2	口語体地の文の「私」と口語体会話文の「わたくし」「わたし」.....	209
第 5 節	まとめ .....	211
第 12 章	女性雑誌の書き言葉の一人称代名詞.....	212
第 1 節	一人称代名詞の語形種類と使用量.....	212
第 2 節	文語体書き言葉の一人称代名詞.....	214
2.1	一人称代名詞の使用量の概要.....	214
2.2	単数用法の一人称代名詞.....	215
2.3	複数用法の一人称代名詞.....	219
第 3 節	口語体書き言葉の一人称代名詞.....	222
3.1	一人称代名詞の使用量の概要.....	222
3.2	単数用法の一人称代名詞.....	226
3.3	複数用法の一人称代名詞.....	231
第 4 節	まとめ .....	236
第 13 章	結論 .....	237
第 1 節	本研究の成果.....	237
第 2 節	今後の展望.....	239
参考文献・参考 URL	.....	242
本論文と既発表研究との関係	.....	248

## 本文

本論文を含む図書が出版されており、本文をインターネットで公表できない。当該図書の書誌情報は以下のとおりである。

著者名	近藤明日子
書名	コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究
出版社	勉誠出版
出版年	2021年2月
ISBN	9784585280521

## 参考文献・参考 URL

- Simpson, J., and Weiner, E. (Eds.) (1989). *The Oxford English Dictionary* (2nd ed.). Clarendon Press.
- Sinclair, J (Founding Editor-in-Chief) (2006). *Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary* (5th ed.). HarperCollins Publishers.
- 天野郁夫 (1992) 『学歴の社会史—教育と日本の近代—』新潮社
- 有山輝雄 (1986) 「言論の商業化—明治 20 年代「国民之友」—」『コミュニケーション紀要』4, pp. 1-23
- 出雲朝子 (2004) 「女性の文章と近代」『日本語学』23(7), pp. 27-37
- 伊土耕平・石川幸子 (2005) 「近代作家における一人称代名詞使用率の経年変化について」『岡山大学教育学部研究集録』128, pp. 1-14
- 梅崎光 (2015) 「一人称の「自分」使用と『軍隊内務書』における自称規定」『国語国文 薩摩路』59, pp. 166(9)-157(18)
- 遠藤好英 (1972) 「白樺派の文章史的考察 (上) —自分小説の創設をめぐる—」『文芸研究』70, pp. 48-58
- 遠藤好英 (2007) 「普通文」飛田良文 (編集主幹)、遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・蜂谷清人・前田富祺 (編) 『日本語学研究事典』明治書院, p. 502
- 岡田賢二 (1998) 「明治期の東京語における人称代名詞の研究—明治・大正期の落語の速記本にあらわれた一、二人称代名詞—」『埼玉大学 国語教育論集』2, pp. 34-58
- 岡本勲 (1980) 「明治文語の助動詞の位相」『中京大学文学部紀要』15:2, pp. 53-98
- 小木曾智信 (2012) 「旧仮名遣いの口語文を対象とした形態素解析辞書」『じんもんこん 2012 論文集』2012:7, pp. 25-32
- 小木曾智信・小町守・松本裕治 (2013) 「歴史的日本語資料を対象とした形態素解析」『自然言語処理』20:5, pp. 727-748
- 小木曾智信・中村壮範 (2014) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報アノテーション支援システム的设计・実装・運用」『自然言語処理』21:2, pp. 301-332
- 小椋秀樹・小磯花絵・富士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕 (2011) 『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第 4 版 (上) (下)』国立国語研究所
- 何欣泰 (2006) 「森鷗外の漢詩文における一人称代名詞について」『岡大國文論考』34, pp. 84(21)-75(30)
- 加藤照美 (1981) 「明治期における『僕』の用法」『日本文学ノート』16 (通巻 38), pp. 50-132
- 神奈川大学人文学研究所 (編) (2004) 『『明六雑誌』とその周辺 西洋文化の受容・思想と言語』御茶の水書房
- 金子弘 (1999) 「リギンズ日本語会話書の標準日本語」佐藤武義 (編) 『語彙・語法の新研究』明治書院, pp. 276(159)-266(169)
- 金子弘 (2000) 「幕末・明治期洋学資料の例文の文体一人称代名詞の使用率と直訳度—」遠藤好英 (編) 『語から文章へ』pp. 414(1)-403(13)
- 木川行央 (2011) 「一人称代名詞としての「自分」」『言語科学研究』17, pp. 39-65
- 北澤尚・祁福鼎・趙宏 (2010) 「近代日本語の自称詞「わがはい」の共時的特性と動態につ



- いて」『東京学芸大学紀要 人文社会学系 I』61, pp.13-26
- 祁福鼎 (2006a) 「明治時代語における自称詞の使用実態と使用規範について」『文学研究論集』24, pp.45-61
- 祁福鼎 (2006b) 「明治時代語における自称詞の推移と位相について」『明治大学日本文学』32, pp.95(1)-78(18)
- 祁福鼎 (2007a) 「明治時代語における自称詞—その全体的様相—」『文学研究論集』26, pp.25-43
- 祁福鼎 (2007b) 「明治時代語における自称詞の複数形」『明治大学日本文学』33, pp.54(9)-42(21)
- 祁福鼎 (2008) 「明治時代語における「わし」と「わつち」」『文学研究論集』28, pp.135-150
- 祁福鼎 (2013) 「明治時代語における下層男性の自称詞について—社会言語学と通時言語学の視点から」『明治大学日本文学』39, pp.54(1)-44(11)
- 祁福鼎・王丹凝 (2014) 「近代文典から見る自称詞の研究史」『明治大学日本文学』40, pp.34(17)-28(23)
- 祁福鼎・金連花 (2012) 「明治時代語における「ぼく」の諸相」『明治大学日本文学』38, pp.86(47)-74(59)
- 黒田光 (2014) 「東洋学芸雑誌」平凡社 (編) 『改訂新版 世界大百科事典 (第6刷)』平凡社 (ネットアドバンス社提供サービス「ジャパンナレッジ Personal」コンテンツによる)
- 国立国語研究所 (2004) 『日本語話し言葉コーパス (第1刷)』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cs/j/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cs/j/)
- 国立国語研究所 (2012) 『日本語歴史コーパス 平安時代編』 (短単位データ 0.8)  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/heian.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/heian.html)
- 国立国語研究所 (2012) 『明六雑誌コーパス (Ver. 1.0)』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cmj/meiroku/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/meiroku/)
- 国立国語研究所 (2013) 『明六雑誌コーパス (Ver. 1.1)』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cmj/meiroku/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/meiroku/)
- 国立国語研究所 (2014) 『国民之友コーパス (Ver. 1.0)』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cmj/kokumin/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/kokumin/)
- 国立国語研究所 (編) (2005) 『太陽コーパス —雑誌『太陽』日本語データベース— (国立国語研究所資料集 15)』博文館新社
- 国立国語研究所 (編) (2006) 『近代女性雑誌コーパス』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cmj/woman-mag/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/woman-mag/)
- 国立国語研究所 (近藤明日子・間淵洋子・服部紀子ほか) (編) (2016) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』 (短単位データ 1.0)  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/meiji\\_taisho.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/meiji_taisho.html)
- 国立国語研究所 (近藤明日子・間淵洋子・服部紀子ほか) (編) (2017) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』 (短単位データ 1.1)  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/meiji\\_taisho.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/meiji_taisho.html)
- 国立国語研究所 (服部紀子・間淵洋子・近藤明日子ほか) (編) (2018) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 II 教科書』 (短単位データ 1.0)

- [https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/meiji\\_taisyō.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/meiji_taisyō.html)
- 国立国語研究所（村山実和子ほか）（編）（2018）『日本語歴史コーパス 江戸時代編 I 洒落本』（短単位データ 0.9）[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/edo.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/edo.html)
- 国立国語研究所コーパス開発センター（2011）『現代日本語書き言葉均衡コーパス（Ver. 1.0）』[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/index.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/index.html)
- 国立国語研究所コーパス開発センター（2015）『現代日本語書き言葉均衡コーパス（Ver. 1.1）』[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/index.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/index.html)
- 国立国語研究所コーパス開発センター（市村太郎ほか）（編）（2015）『ひまわり版「洒落本コーパス」（日本語歴史コーパス江戸時代編）』（Ver. 0.5）
- 国立国語研究所コーパス開発センター（近藤明日子）（編）（2015）『近代文語 UniDic 短単位規程集 Ver. 1.0』国立国語研究所コーパス開発センター，  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/doc/unidic-MLJ\\_rulebook\\_v1\\_1.pdf](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/doc/unidic-MLJ_rulebook_v1_1.pdf)
- 国立国語研究所国語辞典編集準備室（1983）『用例採集のための主要雑誌目録』国立国語研究所国語辞典編集準備室
- 呉少華（2009）『待遇表現の談話分析と指導法—漱石作品を資料にして』勉誠出版
- 後藤ひろ子（2006）『『女学雑誌』における「女権」の考察—清水紫琴の記事と自称詞—』『日本語教育論集』15, pp. 63-69
- 小林美恵子（1976）「『浮雲』に現れた自称・対称代名詞—江戸から明治へ、その決定要因の変遷—」『国文』45, pp. 55-73
- 小林美恵子（2006）「『おれ』と『おまえ』の共同体—その変貌と拡大—」『ことば』27, pp. 90-110
- 小林雄一郎（2010）「コレスポネンズ分析：データ間の構造を整理する」石川信一郎・前田忠彦・山崎誠（編）（2010）『言語研究のための統計入門』pp. 245-264
- 小林雄一郎（2017）『Rによるやさしいテキストマイニング』オーム社
- 小松寿雄（1998）「キミとボク—江戸東京語における対使用を中心に—」東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集編集委員会（編）（1998）『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』pp. 667-685
- 小松寿雄（1999）「キミ・ボク対使用補考—漢文における用法を主に—」『学苑』705, pp. 68-77
- 小松寿雄（2000）「オレ・ソチ・ソナタ・ワッチ・ワタイ—明治東京語女性人称形成の一考察—」国語語彙史研究会（編）『国語語彙史の研究 十九』和泉書院, pp. 1-16
- 小松寿雄（2007）「幕末江戸語の一・二人称代名詞」『学苑』802, pp. 21-32
- 小松寿雄（2008）『『吾輩ハ猫デアル』の一・二人称代名詞—明治東京知識層の言葉（一）—』近代語学会（編）『近代語研究 第十四集』武蔵野書院, pp. 264-276
- 近藤明日子（2014）『『国民之友コーパス』解説書 第1.1版』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/cmj/doc/kokumin\\_manual\\_v1\\_1.pdf](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/doc/kokumin_manual_v1_1.pdf)
- 近藤明日子・小木曾智信・加藤文明子（2010）『『高等小学読本』の形態論情報付きコーパス』『じんもんこん 2010 論文集』2010:5, pp. 189-194
- 近藤明日子・田中牧郎（2012）『『明六雑誌コーパス』の仕様』田中・岡島・小木曾ほか（2012）pp. 118-143
- 佐藤武義（2005）『『万国航海西洋道中膝栗毛』の二著者の用語』近代語研究会（編）『日本

- 近代語研究 4』ひつじ書房, pp. 45-68
- 佐藤武義・前田富祺 (編集代表) (2014) 『日本語大事典』朝倉書店
- 清水康行 (1991) 「漱石の文体—「言文一致」と自称詞をめぐって—」『武蔵野文学』38, pp. 28-32
- 下岡友加 (2005) 「志賀直哉の小説における人称—「自分」・「私」・「彼」のあいだ—」『国文学攷』188, pp. 15-29
- 新潮社 (企画・制作) (1997a) 『新潮文庫大正の文豪 CD-ROM 版』新潮社
- 新潮社 (企画・制作) (1997b) 『新潮文庫明治の文豪 CD-ROM 版』新潮社
- 進藤咲子 (1981) 『明治時代語の研究—語彙と文章—』明治書院
- 杉本つとむ (1965) 「転換期の日本語—江戸から東京へ—」近代語学会 (編) 『近代語研究 第一集』武蔵野書院, pp. 305-324
- 鈴木英夫 (1973) 『『安愚楽鍋』の語法』『紀要』17, 共立女子短期大学 (文科), pp. 30-48
- 須永哲矢・堤智昭・近藤明日子・木川あづさ・服部紀子 (2013) 「明治中期雑誌の異体漢字と JIS 漢字—『国民之友』を事例として—」『じんもんこん 2013 論文集』2013:4, pp. 201-208
- 須永哲矢・堤智昭・高田智和 (2011) 「明治前期雑誌の異体漢字と文字コード—『明六雑誌』を事例として—」『じんもんこん 2011 論文集』2011:8, pp. 381-388
- 園田博文 (2016) 『『官話指南総訳』(明治三十八年刊)の日本語—当為表現・ワア行五段動詞連用形の音便・人称代名詞を手がかりに—』近代語学会 (編) 『近代語研究 第十九集』武蔵野書院, pp. 321-338
- 高田智和 (2012) 「近代語文献を電子化するための文字セット」田中・岡島・小木曾ほか (2012) pp. 36-64
- 高野繁男 (2004) 『近代漢語の研究—日本語の造語法・訳語法—』明治書院
- 高野繁男 (2014) 「翻訳文」佐藤武義・前田富祺 (編集代表) 『日本語大事典』p. 1924
- 高野繁男・日向敏彦 (監修・編) (1998) 『明六雑誌語彙総索引 付複製版「明六雑誌」』大空社
- 田中牧郎 (2004) 「雑誌『太陽』創刊年 (一八九五年)における口語文—敬体を中心に—」『国語論究』11, pp. 78-107
- 田中牧郎 (2005a) 「研究の目的と本書の構成」国立国語研究所 (編) (2005) 『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパス』研究論文集—』博文館新社, pp. i-xiv
- 田中牧郎 (2005b) 「言語資料としての雑誌『太陽』の考察と『太陽コーパス』の設計」国立国語研究所 (編) (2005) 『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパス』研究論文集—』博文館新社, pp. 1-48
- 田中牧郎 (2006) 『『近代女性雑誌コーパス』の概要』『日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究(B) 「20世紀初期総合雑誌コーパス」の構築による確立期現代語の高精度な記述』pp. 55-62
- 田中牧郎・岡島昭浩・小木曾智信・小野正弘・小島聡子・島田泰子・朱京偉・高田智和・張元哉・陳力衛・近藤明日子・須永哲矢 (2012) 『近代語コーパス設計のための文献言語研究 成果報告書 (国立国語研究所共同研究報告 12-03)』国立国語研究所
- 谷川恵一 (2008) 『歴史の文体 小説の姿—明治期における言説の再編成』

- 伝康晴・小木曾智信・小椋秀樹・山田篤・峯松信明・内元清貴・小磯花絵 (2007) 「コーパス日本語学のための言語資源—形態素解析用電子化辞書の開発とその応用—」『日本語科学』22, pp. 101-123
- 常盤智子 (2015) 『英学会話書の研究』武蔵野書院
- 永嶺重敏 (1997) 『雑誌と読者の近代』日本エディタースクール出版部 (オンデマンド版、2004 に拠る)
- 中島国彦 (1977) 「東洋學藝雑誌」日本近代文学館・小田切進 (編) 『日本近代文学大事典 第五卷』講談社, pp. 289-290
- 那須小代美 (1986) 「三遊亭円朝の人情噺における人称代名誘の考察」『国文研究』32, pp. 38-52
- 成田左智代 (1988) 「漢語的表現の研究—『青年』における自称・対称・他称の調査研究」『弘前大國文』14, pp. 27-35
- 西崎亨 (1996) 「一人称代名詞「自分」の記述的意味—志賀直哉作品の表現—」『表現研究』63, pp. 10-17
- 日本近代文学館 (編) (1977-1978) 『日本近代文学大事典』講談社
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 (編) (2000-2002) 『日本国語大辞典 第二版』小学館 (ネットアドバンス社提供サービス「ジャパンナレッジ Personal」コンテンツによる)
- 服部紀子・間淵洋子・近藤明日子・小木曾智信 (2016) 「『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』 Ver. 1.0 の公開」『日本語学会 2016 年度秋季大会予稿集』 pp. 157-162
- 濱田篤 (1995) 「士族と平民の学校教育機会」園田英弘・濱名篤・廣田照幸『士族の歴史社会学的研究』名古屋大学出版会, pp. 215-237
- 飛田良文 (1992) 『東京語成立史の研究』東京堂出版
- 廣田照幸 (1995) 「士族層内部の学校教育機会の分化」園田英弘・濱名篤・廣田照幸『士族の歴史社会学的研究』名古屋大学出版会, pp. 238-264
- 房極哲 (1998) 「明治期の一人称代名詞「わたくし・わたし」—『社會百面相』を中心に—」『筑波応用言語学研究』5, pp. 101-116
- 房極哲 (2003) 「明治期における一人称代名詞「ボク」と「ワガハイ」」『日本學報』55(1), pp. 63-77
- 房極哲 (2004) 「近代語における一、二人称代名詞の変遷について」『日本文化学報』21, pp. 1-15
- 前川喜久雄 (2013) 「コーパスの存在意義」前川喜久雄 (監修・編) 『講座日本語コーパス 1. コーパス入門』朝倉書店, pp. 1-31
- 松崎安子 (2006a) 「明治期の文語文の類型—小学校理科教科書を対象として—」『文化』70:1-2, pp. 92-105
- 松崎安子 (2006b) 「明治期の新聞における文語文記事の文体類型—小学校理科教科書の文体との比較から—」『文芸研究—文芸・言語・思想—』162, pp. 11-22
- 間淵洋子・小木曾智信 (2015) 「異なる文体の混在するテキストに対する複数辞書切り替えによる解析手法の提案」『じんもんこん 2015 論文集』2015, pp. 125-130
- 間淵洋子・近藤明日子・服部紀子 (2017) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』(短

- 単位 Ver. 1.1) テキストの凡例と「中納言」表示項目について」  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/doc/abstract-meiji-taisho-201703.pdf](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/doc/abstract-meiji-taisho-201703.pdf)  
 茗荷円 (2014) 「漱石書簡文に見られる文体差—対人関係を中心に—」『表現研究』99,  
 pp. 10-19  
 茗荷円 (2017) 『近代日本女性書簡文の表現史研究』おうふう  
 村山実和子 (2018) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 I 洒落本』テキストの凡例と『中納  
 言』表示項目について」  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/doc/abstract-sharebon-2018.pdf](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/doc/abstract-sharebon-2018.pdf)  
 森岡健二 (編著) (1991) 『近代語の成立 文語編』明治書院  
 森川知史 (1982) 「明治開化期の待遇表現—『安愚楽鍋』にみえる敬語」『国文学論叢』27,  
 pp. 1-14  
 山口昌也 (2005) 「構造化テキストに対応した全文検索システム『ひまわり』」国立国語研  
 究所 (編) (2005) 『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパス』研究論  
 文集—』博文館新社, pp. 49-82  
 山田実樹 (2012) 『『赤い鳥』の童話作品における一人称代名詞—鈴木三重吉を中心に—』  
 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 (文化教育開発関連領域)』61, pp. 179-188  
 山西正子・山田繭子 (2008) 「「あたし」考」『目白大学人文学研究』4, pp. 183-200  
 山室信一・中野目徹 (校注) (1999-2009) 『明六雑誌 (上) (中) (下)』岩波書店  
 (1970-1982) 『日本思想大系』岩波書店  
  
 AYTC <https://github.com/teru-oka-1933/aytc>  
 TEI <https://www.tei-c.org/>  
 青空文庫 <https://www.aozora.gr.jp/>  
 旧仮名口語 UniDic [https://unidic.ninjal.ac.jp/download\\_all#unidic\\_qkana](https://unidic.ninjal.ac.jp/download_all#unidic_qkana)  
 近代文語 UniDic [https://unidic.ninjal.ac.jp/download\\_all#unidic\\_kindai](https://unidic.ninjal.ac.jp/download_all#unidic_kindai)  
 国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)  
<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla/>  
 中納言 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>  
 日本語史研究資料 [国立国語研究所所蔵] <https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/>

## 論文の内容の要旨

### 研究の背景と目的（第1章）

従来の近代語の一人称代名詞の研究は、文芸作品中の会話文を資料として当時の話し言葉における体系と通時的变化を解明することに焦点があてられてきた。一方で、当時の書き言葉(不特定多数の読者に向けた論説文・報道文の類)の一人称代名詞の研究はほとんど進んでいない。その解明のためには、当時の膨大な書き言葉の資料からその縮図となるように研究対象の資料を選定し、そこから網羅的に一人称代名詞の語形群を抽出し、語形相互の関係から体系や通時的变化を考察することが望ましい。しかし、人手による用例抽出を主とする従来の研究手法ではこうした研究を行うことは困難であった。そこで本研究は、明治・大正期の書き言葉で使用される一人称代名詞を網羅的に調査し、計量的な分析に基づき、その体系と通時的变化を明らかにすることを目的とする。そして、網羅的な用例抽出の実現のため、均衡性・代表性を担保した大規模な「近代雑誌コーパス」の構築を行う。

### 近代雑誌コーパスの設計と構築（第2章）

明治・大正期の大規模な言語資料として、国立国語研究所にて構築・公開された近代総合雑誌のコーパス『日本語歴史コーパス 明治・大正編Ⅰ 雑誌』（以下、『明治・大正編Ⅰ』と呼ぶ）がある。本稿筆者は本コーパスの開発担当者の一人として設計・構築を主導した。その設計は、共時的・通時的な均衡性・代表性に配慮して収録雑誌を選定し、言語研究に必須の形態論情報(語境界・品詞情報等の情報)をはじめ、言語研究に有用なアノテーション(コーパスをより高度に利用するために付加された検索用情報)を高密度に付与するものとした。さらに本研究を進めるにあたり、『明治・大正編Ⅰ』の収録雑誌の年代的不足を補うため、『東洋学芸雑誌』を追加資料として選定し『明治・大正編Ⅰ』の設計に合わせて独自にコーパス化を行った。また、一人称代名詞の研究の観点として欠かせない話者の性別・社会階層に関するアノテーションの付与も独自に行った。このように『明治・大正編Ⅰ』に本研究に必要なデータを増補して構築した「近代雑誌コーパス」により、均衡性・代表性を担保した大規模なコーパスから、形態論情報を利用して網羅的に用例を抽出し、それと同時にアノテーションを利用して言語使用場面に関わる情報も取得し、それらを計量的に分析して使用場面による言語変種間の差異を考察できる研究環境を整えることができた。

### 一人称代名詞と使用場面属性の抽出・分類（第3章）

本研究で分析対象とする一人称代名詞の用例の抽出にあたり、コーパスの形態論情報を利用した抽出方法とその用法(「単数/複数」の2種)の分類規準を示した。また、用例分析の観点として、①文章種類(「文語体地の文/口語体地の文/口語体会話文」の3種)、②口

語文体Ⅰ(常体・敬体の文末辞の多寡による口語体の分類で「常体/混合体(常体多)/混合体(敬体多)/敬体」の4種)、③口語文体Ⅱ(敬体の文末辞の種類が多寡による口語体の分類で「常体/ですます体/ございます体」の3種)、④使用者性別(「男性/女性/不明」の3種)、⑤使用者社会階層(「知識層/非知識層/不明」の3種)、⑥雑誌種類(収録雑誌7誌とその刊行年による分類で「明六(『明六雑誌』1874-75年)/東洋(『東洋学芸雑誌』1881-82年)/国民(『国民之友』1887-88年)/太陽Ⅰ(『太陽』1895年)/太陽Ⅱ(『太陽』1901年)/太陽Ⅲ(『太陽』1909年)/太陽Ⅳ(『太陽』1917年)/太陽Ⅴ(『太陽』1925年)/女雑(『女学雑誌』1894-95年)/女世(『女学世界』1909年)/婦俱(『婦人倶楽部』1925年)」の11種)をとりあげ、その分類規準とアノテーションを利用した情報抽出方法を示した。

#### 言語量から見る近代雑誌コーパスの資料特性(第4章)

近代雑誌コーパスを研究に使用する前提としてその資料特性を明らかにするために、コーパスのアノテーションを利用して本研究に必要な観点から言語量の計量的な分析・考察を行った。その結果、近代雑誌コーパスは延べ語数1272万語という研究に十分な言語量を持つ資料であることをまず確認した。そして、非文芸記事の地の文について、①文体割合や口語文体割合に通時的変化が見られる、②著者の性別によって文体割合や口語文体割合に差異が見られる、③雑誌の読者層の性別によって文体割合や口語文体割合に差異が見られる、等を明らかにした。また、小説・戯曲記事中の口語体会話文について、話者の性別・社会階層によって会話文の言語量や口語文体割合に差異が見られる、等を明らかにした。

#### 文語体書き言葉の一人称代名詞(第5章～第9章)

雑誌種類「明六/東洋/国民/太陽Ⅰ/太陽Ⅱ/太陽Ⅲ/太陽Ⅳ/太陽Ⅴ」の文語体地の文を資料として、当時の文語体書き言葉の一人称代名詞の体系・通時的変化を明らかにすべく分析・考察を行った。研究の前提として、3種の文章種類で使用される一人称代名詞の語形は全66種類あるが、文章種類間で各語形の使用頻度に大きな差異があることを明らかにし、文章種類別に一人称代名詞の体系・通時的変化を考察することの重要性を確認した。

文語体地の文の分析・考察の結果、①単数用法では候文体、複数用法では一人称代名詞の指示する範囲に対応した語形の使い分けが見られる、②著者と使用する語形には対応関係が見られ、一人称代名詞の語形は著者の好みにより選択され、著者の文章を特徴づける要素となっていた側面がある等、雑誌種類に共通する傾向を明らかにした。一方で、①「東洋」は使用される語形の種類数が少なく特定の語形が集中して用いられる、②「国民」は無署名記事で「吾人(ごじん)」を専用する、等の各雑誌種類に特有の傾向も明らかにした。

次に、雑誌種類の刊行年の時系列順に分析結果を比較し、通時的変化について考察した。その結果、複数用法の「吾人」が単数用法を進展させ、単数用法の主たる語形が「余(よ)」から「吾人」へと置き換わっていくという「吾人」を軸とした通時的変化を明らかにした。

その変化は、著者が自身の論を展開する際、論に一般性を持たせるために、著者個人を指示する語形として本来複数用法の語形を使用することによりもたらされたと考えられる。

### 口語体書き言葉の一人称代名詞（第 10 章）

雑誌種類「太陽Ⅰ/太陽Ⅱ/太陽Ⅲ/太陽Ⅳ/太陽Ⅴ」の口語体地の文を資料として、当時の口語体書き言葉における一人称代名詞の体系・通時的変化を明らかにすべく分析・考察を行った。その結果、「私(わたくし・わたし)」を単数用法の主たる語形としながら、文語体地の文に特徴的な「余」「吾人」「我が輩」が勢力を持つ時期を挟む通時的変化を明らかにした。この変化は、口語体書き言葉の口語文体Ⅰが当初「混合体(敬体多)」が主流であったものが「常体」が主流となるという通時的変化において、「常体」に対応した語形として「余」「吾人」「我が輩」が選択されたことよってもたらされたものである。口語体書き言葉が、話し言葉的性質を脱し書き言葉として確立していく過程で、すでに書き言葉として確立していた文語体書き言葉の影響を受けつつ変化したことを示す事例と見なされる。

### 口語体会話文の一人称代名詞（第 11 章）

雑誌種類「太陽Ⅰ/太陽Ⅱ/太陽Ⅲ/太陽Ⅳ/太陽Ⅴ」の口語体会話文を資料として、当時の話し言葉の一人称代名詞の体系・通時的変化と口語体書き言葉との関係を明らかにすべく分析・考察を行った。その結果、①性別・社会階層でそれぞれ異なる一人称代名詞の体系を持つ、②知識層男性話者の口語体会話文の体系・通時的変化は知識層男性著者による口語体地の文の体系・通時的変化と密接に関係している、等を明らかにした。

### 女性雑誌の書き言葉の一人称代名詞（第 12 章）

女性を主な読者層とする雑誌種類「女雑/女世/婦俱」の文語体地の文・口語体地の文を資料として、女性著者による書き言葉や女性読者向けの書き言葉の一人称代名詞の体系を明らかにすべく分析・考察を行った。その結果、①女性著者は文語体では「われ」、口語体では「わたし」を主に使用し、男性著者とは異なる一人称代名詞の体系を持つ、②女性著者の使用する語形は、女性著者に特徴的な文体(文語体では和文体、口語体では敬体の文末辞を多用する文体)に対応して選択される、③女性雑誌では女性読者を意識して、男性著者も女性著者の一人称代名詞の体系に沿った語形を選択する傾向がある、等を明らかにした。

### 研究の成果と課題（第 13 章）

本研究の成果として、①近代雑誌コーパスの構築により、従来の手による研究手法では困難であった、大規模コーパスの使用による包括的調査と計量的分析に基づく実証的研究を近代語研究で可能とし、今後の近代語研究の発展に寄与する環境を整備した、②明治・大正期の書き言葉の一人称代名詞の体系と通時的変化を明らかにしたことにより、近代語の新たな側面に光をあて新しい知見をもたらした、等があげられる。また今後の課題とし



て、①本研究で構築したコーパスデータの未公開部分を公開する、②一人称代名詞の体系について、明治・大正期とその前後の時代との連続性を検討し、日本語史全体のなかに位置づける、③一人称代名詞以外の言語項目でも、近代の文語体書き言葉での通時的変化や文語体書き言葉から口語体書き言葉への影響が見出されるのか、コーパスを使って調査・分析し、近代文章史における新たな知見を得る、等があげられる。